

令和8年度の学校教育目標等について

京都市立松原中学校

校是

— 自律・友愛・創造 —

自律：学びや経験を振り返りながら、自分で考え、判断し、次の行動に活かしていく力を育てる。

友愛：多様な他者と関わり、対話を通して互いを理解し、折り合いをつけながら協働できる関係を築く力を育てる。

創造：失敗を恐れず、新しいことや困難なことにも挑戦し、その経験を次につなげながら未来を切り拓こうとする姿を育む。

令和8年度 学校教育目標

自ら考え、つながり、挑戦する生徒を育てる

Think — Connect — Challenge

目指す生徒像

松原中学校では、次の3つの姿を目指す生徒像とします。

① 自ら考え、振り返り、次に生かそうとする生徒【Think】

学習や行事、学校生活の中での経験を振り返り、「何を学んだのか」「自分はどう成長したのか」を言葉にし、次の行動や学びに生かそうとする生徒。

② 他者と対話し、折り合いをつけながら協働できる生徒【Connect】

自分の考えを伝えるとともに相手の考えを尊重し、意見や立場の違いがあっても、対話を通して折り合いをつけ、よりよい合意や解決を目指して協働しようとする生徒。

③ 失敗を恐れず挑戦し、成長し続けようとする生徒【Challenge】

新しいことや困難なことにも前向きに挑戦し、うまくいかなかった経験も学びとして捉え、次の挑戦につなげながら成長し続けようとする生徒。

令和8年度 学校経営方針

- 1 一人一人の生徒が、自身の成長を実感できる教育活動を通して、自己肯定感・自己有用感を高める学校づくりを進める。
- 2 授業・行事・自治活動など、学校生活全体を通して「考える・つながる・挑戦する」力を育てる。
- 3 人権尊重を基盤とした、安心・安全な学校風土を大切にし、誰一人取り残されない学校づくりを推進する。
- 4 地域・家庭・他校種との連携を深め、社会に開かれた学校として生徒主体の教育活動を充実させる。
- 5 学校教育目標を共通言語とし、教職員がチームとして日常の実践を積み重ねる学校経営を行う。

— 重点方針 —

1. 学習指導【Think：学びを振り返り、次につなげる】

- (1) 授業において「“めあて”の提示 → 主体的な学習活動 → 振り返り」の流れを大切にし、学びの質を高める。
- (2) すべての教科で、言語活動や対話的な学びを重視し、生徒が考えを深め、共有する学習を進める。
- (3) 行事・探究的活動・体験的学習を通して、経験を振り返り、次に生かす力を育成する。
- (4) ICTを、情報収集や整理、振り返りを支える学習ツールとして活用し、授業と家庭学習をつなげる。
- (5) 結果だけでなく、学びの過程や工夫、つまずきに着目した評価を工夫する。

2. 生徒指導【Connect：対話と折り合いを通じた成長】

★「させる指導」から「支える指導」へ

- (1) 生徒一人一人の思いや背景を丁寧に受け止め、生徒理解に基づいた関わりを大切にする。
- (2) 日常的な対話を通して、生徒との信頼関係を築く。
- (3) 学級・学年・学校全体で、安心して意見を出し合える居心地のよい集団づくりを進める。
- (4) 生徒会活動や部活動等を通して、合意形成や協働の経験を積ませる。
- (5) 教育相談体制を整え、スクールカウンセラー等と連携しながら生徒に寄り添う。

3. 人権教育【すべての教育活動の基盤として】

- (1) 人権文化の定着を図り、参加体験型の人権教育を推進する。
- (2) 特別支援教育・インクルーシブ教育への理解を深め、多様な生徒が共に学ぶ環境づくりを進める。
- (3) 性教育や情報モラル教育を通して、自他を大切に作る判断力と行動力を育てる。
- (4) 総合的な学習の時間、道徳、特別活動を関連付け、人格形成を意識した教育を進める。

4. 地域連携・学校評価【社会とつながる学び】

- (1) 学校運営協議会を核として、小中一貫教育をはじめ、地域や他校種との連携を深める。
- (2) 伝統文化教育や地域人材の活用を通して、学びが社会とつながっていることを実感させる。
- (3) 地域でのボランティア活動等を推進し、生徒の自己有用感を高める。
- (4) 学校評価を経営改善に生かし、教育活動の質の向上を図る。

5. 教職員研修【目標を「生きた実践」にするために】

- (1) 学校教育目標を軸とした校内研修を計画的に実施する。
- (2) 授業改善や生徒理解をテーマに、実践に直結する研修を充実させる。
- (3) 若手・中堅教員の学び合いを促進し、組織としての専門性を高める。
- (4) 校外研修や他校との交流を通して、視野を広げた教育実践につなげる。

結び

令和8年度は、生徒が「考え、つながり、挑戦する」経験を重ね、その一つ一つを振り返り、次につなげる学校を、教職員全員で創っていきます。